



「ひまわりの丘」の環境にやさしいまちづくり

そのII 【冬のパイナップルづくり】

馬のウンチは、栄養たっぷり、じんわり暖かい熱を出してくれる。これを上手に利用したら、寒い冬でもあまくておいしいパイナップルが収穫できたよ。エネルギーの使い方を工夫すれば、環境にもやさしいね。

わたしたちの世界では、環境のことを考えてどんな工夫がされているのかな。



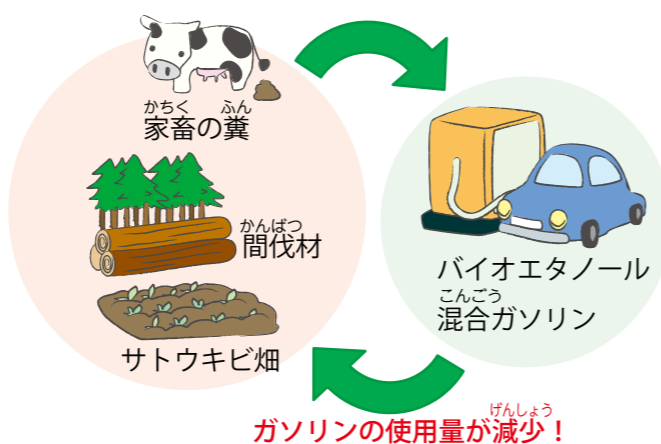
2 地球を守るいろいろな対策

対策① バイオマスエネルギー

バイオマスエネルギーは、木材や生ごみ、動物の糞、死がいなどのバイオマス資源からつくられたエネルギーのことをいいます。バイオマスは、燃やすと二酸化炭素を出しますが、植物などの成長の過程で、排出した二酸化炭素を吸収するため、大気中の二酸化炭素が増加しないとみなすことができるエネルギーです。

また、バイオマス資源は、建築廃木材やサトウキビなどからバイオエタノールを作るなど、いろいろなところに利用されています。

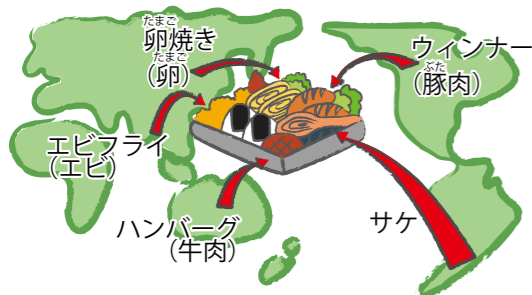
今後さらに技術を開発することで、みんなが普段の生活で使えるようにしていきます。



ガソリンの使用量が減少!

対策② フードマイレージ

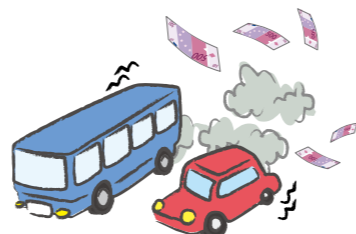
みんなが毎日食べているものの中には、エネルギーをたくさん使って外国から日本に運ばれてきた食材がたくさんあります。フードマイレージは、食べ物が運ばれてくる距離のことです。外国産の食材を食べるより、地元で取れた野菜や国産の食材を食べるだけで、冬にエアコンの温度を1℃下げるくらい二酸化炭素を減らすことができるそうです。みなさんもフードマイレージを減らして環境にやさしい食事をしましょう。



対策③ 環境税

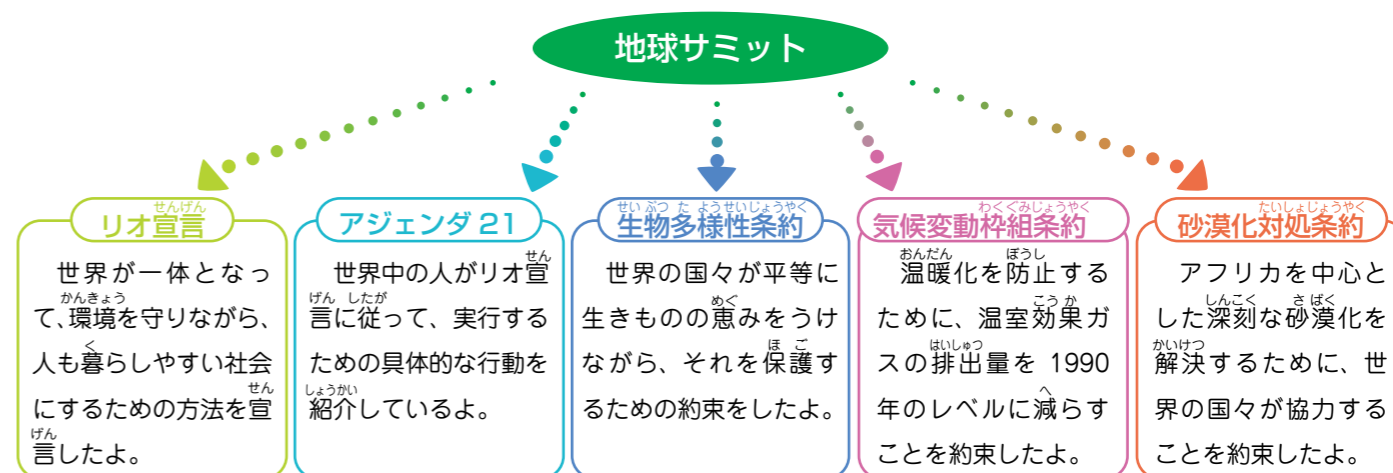
世界では、デンマーク、フィンランド、ノルウェー、スウェーデン、ドイツ、オランダ、イギリスなどで始めているのが「環境税」です。

これは、二酸化炭素を空気に出すとお金を払わなければならない仕組みで、電気やガスやガソリンを使った分だけ払います。地球温暖化の防止に役立っています。



対策④ 地球サミット

1992年6月ブラジルのリオデジャネイロで、「地球サミット」(環境と開発に関する国際会議)が開かれました。各国を代表する首脳を中心に世界180カ国以上が参加して「地球環境を守りながら開発をするにはどうしたらいいか」をテーマに話し合いました。この話し合いで、環境を守りながら開発をするための基本的な考えを示した「リオ宣言」やリオ宣言に従って具体的に行動するための規定である「アジェンダ21」、そのほかに、生きものを守るための条約となる「生物多様性条約」、温暖化を防止するための「気候変動枠組条約」などが打ち出されました。



地球を守るために世界中が動いた!

「気候変動枠組条約」をさらに具体的な行動に移すために、1997年に京都で会議が開かれたんだって。それが、「京都議定書」になるのね。10ページで勉強したわ。



知っておこう! 日本語の「もったいない」が世界の合言葉に!

日本人は昔、むやみにものを捨てないで、使えるものは資源として、大切に再利用してきました。日本人のものを大切にする気持ちから誕生した「もったいない」という言葉が世界で注目を浴びています。

ノーベル平和賞の受賞者で、ケニアの前環境副大臣ワンガリ・マータイさんは、環境問題対策として進められている「3R」の考えが、日本語の「もったいない」一言で表されているとして、世界中に「MOTTAINAI」を合言葉として発信しています。

「もったいない」はケチであることとは違います。ものの価値を十分に理解して、無駄のない使い方をすることで、ゴミを減らし、環境をよくしていきましょう。



(写真提供: 毎日新聞社)



ワンガリ・マータイさん